



9月えんだより

2017年 9月1日

社会福祉法人神戸YMCA福祉会
幼保連携型認定こども園
西宮つとがわYMCA保育園
園長：谷川 尚

2017年度年間聖句：

「あなたがたは神に愛されている子どもです。」

エフェソの信徒への手紙5章1節

9月聖句：「もとめなさい。そうすれば与えられる。」

マタイ7章7節

この夏も、夏らしい活動をたくさんすることができました。プールや水遊び、泥んこあそびにセミ取り、子どもたちも、それぞれに「はじめてできたこと」「もっとたくさんできるようになったこと」「前よりたのしくなったこと」、たくさんの発見と喜びの中で大きな成長のあった夏であったように感じます。(特に水が苦手だった子が喜びを感じている表情を見せてくれた時には、保育者も一緒に喜びを感じます！)

人類の起源はアフリカというのが定説になっていますが、狩猟を生活の中心としていた時代に獲物を追い求め、もともと住んでいたところとはまるで違う環境(ヨーロッパ、アジアを通してアメリカ大陸へどんどん寒い地域そしてまた暑い地域へ)に生活の場を変えていったようです。そうして何万年という時間をかけて、極地を除く全世界に人類は住むようになったようです。決して平坦な歩みではなかったと思いますが、どんな環境にでも、知恵を使い、協同して暮らすことによって、新たな地を開拓していったのです。地球上にたくさんの生物種がありますが、新しいこと、環境の変化をものともせず、その生活の地を広げ、子孫を増やしたのは人類のみでしょう。

生物種の中でも、最も養育期間(子育て期)が長く必要である弱い存在であるはずの人類がこれまでの存在となったのはなぜでしょう。歴史学者、生物学者、多くの学者が様々な要因を挙げていますが、保育園で人の「生きる力」を感じるのは、「探求心」と「協同精神」を発揮しているときです。そうした力はどのように育っていくのでしょうか。子どもは生まれた時から常に新しい環境に興味を広げ、見て、触って、感じて、自分の感覚を常に調整するという行為を絶え間なくする中で、「自分」と「外」とを理解していきます。そして新しい世界観を日々広げていっているのです。そして一人ではネガティブな感情に負けてできないこと、広げられないことでも他者と協同することによって、それぞれの力、知識を結集して、新たなつながり、世界観を創造することができます。日々の生活でも、多数で関わることによってあそびが広がっていくのはよく見る光景です。保育園では、「経験すること」「他者と関わること」の中で子どもの「生きる力」を育てています。子どもの知識や技量を単に大人が教え込んで伸ばすのではなく、子ども自身が自分の世界を広げることを主体的に求める育ちが守られるよう、歩んでいきたいと思います。

月主題	いっしょに	
月のねがい	乳児(0.1.2歳児)	幼児(3.4.5歳児)
	<ul style="list-style-type: none"> 保育者や友達と一緒に体を動かす遊びを楽しむ 走ったり跳んだり体を十分に動かす 新しい経験をする 	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことの気持ちよさがわかる 友達と協力して、取り組むことのおもしろさを経験する 新しいことも気持ちを向けてやってみようとする 季節の移り変わりに気づき、身近な自然と触れ合って遊ぶ